

「新たなプログラム」

ここ磐梯は、さまざまなプログラムを提供しながら利用される皆様のご要望に応えながら、その立場に立って、研修支援をしています。多く利用されるプログラムは、磐梯山や安達太良山などの「登山」、そして裏磐梯湖沼群でのフィールドワーク、トレッキング、そして、所周の「オリエンテーリング」などです。いずれも何年も前から当所にあるプログラムです。

私は、毎年1つずつプログラムを増やしていこうと考えています。例えば、所の南側に流れる「土田 (はにた)」堰を利用して、堰下り。このプログラムには、堰を管理する水利組合の許可が必要ですし、堰を利用したプログラムには、重大な事故の可能性がありますので、安全管理の徹底が必須です。特にコース内の危険物の撤去やスタッフの危機管理能力の醸成などなど。

次は、「絶滅危惧種観察ツアー」です。所のフィールドには、絶滅危惧種といわれる植物が数種類あります。福島大学の黒沢先生と研究室の学生さんたちが数年にわたって調査を続け、見つけてくれました。写真をもとにフィールドを歩き、見つけるプログラム。このプログラムは、絶滅危惧種の管理が最も難しいことです。これらの希少種は、盗掘に合う可能性があり、これらの情報をどう管理していくかを考えていかなければなりません。

三つめは、環境教育としての「猪苗代湖の水質調査」や「猪苗代湖の白鳥」、「猪苗代湖の生物」です。地元の講師と一緒に、新学習指導要領の趣旨を生かし、指導案を作成し、自分たちのプログラムにしていけることが大切であると考えています。

企画指導専門職や事業推進係とじっくり話し合い、順次新しいプログラムを作成してまいりたいと考えています。

(文責 所長 福 士 寛 樹)